

広島市の下痢症患者由来サルモネラの血清型別 (2007年)

生物科学部

はじめに

広島市内で発生した下痢症の状況を把握するため、医療機関等で分離された菌株について疫学的な解析を続けている。

2007年に広島市内の病院、臨床検査センターなどの医療機関で分離され、当所に分与されたサルモネラ菌株(チフス菌を除く)の血清型別結果について、その概要を報告する。

方法

1 材料

2007年に医療機関から分与されたサルモネラ28株を供試菌株とした。

2 血清型別

市販のサルモネラ診断用免疫血清(デンカ生研)を用い、常法に従い血清型別を行った。

結果

1 サルモネラの分離状況

過去4年間の分離株数を表1に示した。2007年

表1 年別サルモネラ分離状況

O群	年別分離菌株数			
	2004	2005	2006	2007
04	12	7	8	12
07	8	12	9	6
08	2	6		2
09	60	10	4	8
計	82	35	21	28

は28株で、2005年以降横ばい状態の検出傾向にあった。

2 血清型別検出状況

血清型別検出状況を表2に示した。分離された28株は12種類の血清型に分けられた。S.Enteritidisが8株(28.6%)で最も多く、次いでS. Typhimuriumが7株(25.0%)、S. Saintpaulが3株(10.7%)であった。

なお、S.Enteritidis 8株中1株は、リジン脱炭酸能(-)であった。

謝辞

菌株を分与していただきました広島市立舟入病院をはじめ各医療機関に対し深謝いたします。

表2 血清型別検出状況

血清型	分離菌株数
04 S.Typhimurium	7
S.Saintpaul	3
S.Paratyphi B	2
07 S.Livingstone	1
S.Bareilly	1
S.Montevideo	1
S.Thompson	1
S.Mbandaka	1
S.Mikawasima	1
08 S.Manhattan	1
S.Hadar	1
09 S.Enteritidis	8
計	28